

「おおけやき」では、上毛新聞のシユニア
俳壇・シユニア詩壇・青春短歌に掲載された
本校児童の作品をご紹介します。

短歌の部

(七・八月掲載)

二年 ぬの下しおり
おかあさんうれいときはいつだつてにこに
こにこにこわらつてる

六年 中村 幸祐
見のがした最後のボールはストライク次こそ
打つぞセンター返し

一年 ふかさわにいむ
たんじょうびママがにゆういんかなしいなあ
とでじいちゃんによるごはん

四年 杉田 美月
こいのぼり家の中で ゆれているなんだか気持
ちがおちついてくる

四年 高坂 望杏
かしわもち給食の時間出てくるととりあいつ
この始まりだ

四年 片桐 瑠南
かれた木にじっとみてたらみどりの葉その時
私光をあびた

五年 杉山 結衣
おひさまは明るくてらし守ってるみんなの笑
顔楽しみにして

五年 岡田 映人
あせかいて水分ほき ゆうちゃんとして運動た
くさんやりましょう

六年 星野 悠斗
はばとびで走ってとんで新記録またまたとん
でまたまた新記録



六年 佐藤 璃音
おおけやきみどりの洋服春風とふさふさやさ
しくなびいているよ

六年 井上 葉那
春の風花といっしょに遊んでる私もまぜてお
にごっこ

四年 星野みいな
みんなとねおしくらまんじゅうしていたら太
陽と雲もいっしょにしたよ

四年 羽鳥 陽香
お姉ちゃん毎日けんかしてるけどいらないとさ
びしい一緒にいたい

四年 千葉 太郎
春の雨さくらのおいさを消してゆくかおりを
消す雨ちよつといじわる

四年 佐々木さくら
さくらの木いっぱい花びら落ちていくいた
い何枚あるんだろう

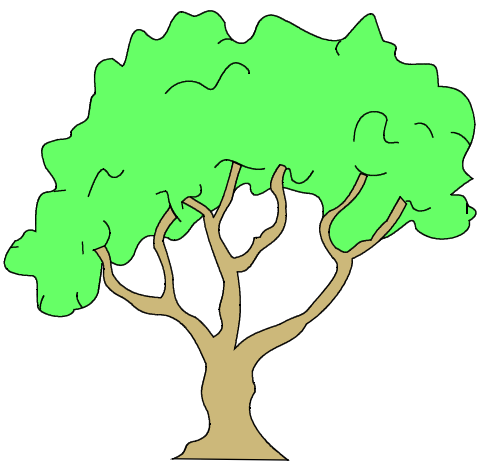
四年 斉田 侑夏
お母さんの料理すがたはあこがれでいつか私
もやってみたいな

四年 斎藤 桃嘉
きれいだな桜の景色をみているとなんだか笑
顔になってくる

四年 平田 咲
大けやき6年生の卒業をうれしそうにみまも
っているよ

四年 渡辺 亜美
春の花いっぱいあってきれいだな菜の花桜に
たんぽぽ椿

四年 戸塚ひなり
6年生卒業しちゃうとさびしいなでも今まで
は楽しかったよ



四年 加藤 寛也
学校はこのころがあつてやなんだよだから勉強
がんばるぞ

五年 酒井 美羽
六年生卒業のにおいっぱいだ姉ちゃん中学
へいってらっしゃい

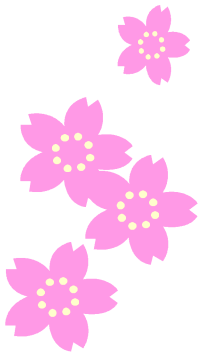
五年 齊田 侑夏
春ってねお別れのとくでもあるんだよでも心
ではあなたといっしょ

六年(現中二)女屋 結太
あこがれの卒業証書手にとって卒業生だと自
かくを持った

五年 山田 珠稟
春がくる4月は楽しみクラスがえ次は何組に
なるのかな

五年 羽鳥 陽香
お母さんいつも笑っているけれど心の中は大
変だろくな

五年 永田 龍汰
春の朝ベランダ開けて上見ると鳥の鳴き声桜
もきれい



(九・十月掲載)

二年 ぬのしたしおり
みずぎきて歩いていくよプールまでみずぎの
かたちにせなかがやけた



(十一・十二月掲載)

二年 ぬのしたしおり
りょうてをねひろげてとぶよ空のとりわたし
もいっしょにとびたいな

五年 酒井 美羽
みんなでね雲一つない青空にいっしょにジャ
ンプし飛びこみたいな

五年 布下 蒼梓
流れにも逆らい泳ぐさけの背は故郷の川へ近
づいている

五年 藤沢 琉世
輝くよ十五年ぶりに大接近赤くキラキラ大き
な火星

五年 戸丸たいせい
弟が一年生で初めての夏休みの課題教えてあ
げる

五年 山岡 稟空
暑い日は庭で飼っているうちの犬ひかげにもぐ
りそこから出ない

五年 中島 凜
善光寺お盆の人でいっばいだまずはお参りゆ
つくりすすむ

五年 亀井 一平
太陽が朝からギラギラ笑っている今日からぼく
の夏休み

二年 ちば あみ
おかあさんせんたくたみみんどうそうわた
しもてつだってあげたいな

二年 いけつまお
一学きおわったらねつう知ひょうもらうまえ
はねどきどきしちゃう

二年 つだはるか
こうえんでブランコいでくつとばしわたし
のくつがとおくへとんだ

四年 井田 絢菜
アジサイが朝日にあたってきれいだなアジサ
イの上にしずくが光る

五年 奥泉りあん
たんざくにねがいごと書いてつるしたらささ
の葉がOKと言ってくれたよ

六年 麦間 亮汰
夏休み山なし県に行きたいなぶどうにほつと
うまた食べたな

六年 山口 樹
夏になりとうもろこしが食べられるやきとう
もろこしはもっとおいしい

